

第三種郵便物認可

信濃新報

横浜市大教授らプロジェクト

アフガニスタンの種から改良した小麦を観察する横浜市立大の坂智広教授(左)とアフガンの研究生ら。6月26日、横浜市戸塚区



半世紀前にアフガニスタンから持ち帰り、横浜市立大の木原生物學研究所(横浜市戸塚区)が保存していた小麦の種を「帰郷」させて、戦争と干ばつで荒廃した土地に豊かな小麦畑をよみがえらせようというプロジェクトが進んでいる。現地の試験場で栽培されている小麦は黄金色に実り、この夏、初めての収穫の季節を迎えた。

同研究所は約6千種の小麦の種をマイナス約20度で保存する設備を持つ、国内有数の種子バンクだ。「保存状態が良ければ100年前のもので芽が出る。種はまさにタイムカプセルなんです」。横浜市立大の坂智広教授(植物遺伝育種学)はそう話す。

今回のプロジェクトは、国際協力機構(JICA)などが開発途上国と協力して地球規模の問題に取り組むプログラムの一つで、坂教授らが2011年にスタートした。使用した種は1955年、

半世紀前の種を「帰郷」

首都カブール市内の二つの試験場計約800平方メートルで栽培されている小麦は約360種。昨年11月に種まきし、「根が長く水分をよく吸う」「実が多い」「病気に強い」などの遺伝子の特徴をデータ化し、品種改良に役立てる。今年6月末に初めての収穫を始める。今後は栽培地域を広げていく計画だ。

社会主義体制だったアフガンは近代的な農業が發展して

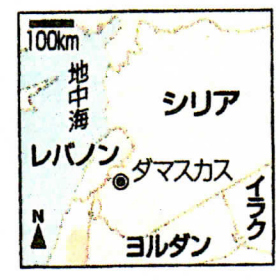
いたが、長年の戦争と干ばつで土地は荒れた。農業施設は反政府武装勢力タリバンなどから持ち帰った。その後、代々の研究者が約10年ごとに小麦に育てて種子を採取し保存してきた。

プロジェクトは、現地に自生していた種の厳しい気象条件に強い遺伝子と、収穫量の多い近代種を掛け合わせ、最も適した品種を作り出すことを目指す。

坂教授は「品種改良には10年、普及まで5年と言われる。目に見える成果がすぐに出なくても、50年後、100年後の未来を変えられるかもしれない」と意気込んでいる。

同研究所は「品種改良には10年、普及まで5年と言われる。目に見える成果がすぐに出なくても、50年後、100年後の未来を変えられるかもしれない」と意気込んでいる。

アフガンの畑小麦で復活を



ドレーズの代表選手オマル・マスカスも6月に入ってから爆発テロや小競り合いが増え、治安は急速に悪化。それでも、子どもや女性らへの虐殺が続く地方に比べれば、まだ安全だ。近郊の山や砂漠地帯の道なども走り込み、1週間の走行距離は900キロ近くになる。



マスカスも6月に入ってから爆発テロや小競り合いが増え、治安は急速に悪化。それでも、子どもや女性らへの虐殺が続く地方に比べれば、まだ安全だ。近郊の山や砂漠地帯の道なども走り込み、1週間の走行距離は900キロ近くになる。

内戦の

キャリアは15年。この間、国際大会にも何度か出場してきたが、五輪は「本心に夢の場所だった」。それだけに練習は決して手を抜かない。「メダルは無理かもしれないが、10位以内には入りたい」と目標を語った。



シリアはボクシングなど7

【パリ共同】フランスの捜査当局は3日、2007年の大統領選で当選したサルコジ前大統領が選挙戦の際、個人的に親しい富豪から政治資金規制法の上限を超える違法な献金を受け取った疑いで、前大統領の自宅や個人事務所、弁護士事務所の計3カ所を家宅捜索した。

仏前大統領の07年選挙

疑惑は10年に発覚し、サルコジ氏側近のブルト元労働相らが事情聴取を受けた。大統領には刑事罰の免責特権があるため、捜査当局は今年5月のサルコジ氏の大統領退任後、免責特権が切れるのを待って捜査に着手したとみられる。サルコジ氏と家族は2日、カナダへ向けて出国しており不在だった。前大統領の弁護士は、同選挙戦の最中にサル